

たまねぎ発祥の地からオンリーワン札幌プロジェクト

札幌市

1 課題設定の背景

- 歴史あるたまねぎ産地の維持
高齢化や離農による農地面積や生産量の減少が著しい。
- 低地に位置し透排水性が劣る土地条件
過湿による被害を受けやすく収量・品質が安定しない。
- ブランド化が進むたまねぎ在来品種「札幌黄」
ブランド力の安定には、安定栽培に向けた支援が必要。
- 端境期たまねぎ需要の向上
早生たまねぎ栽培体系構築への要望がある。

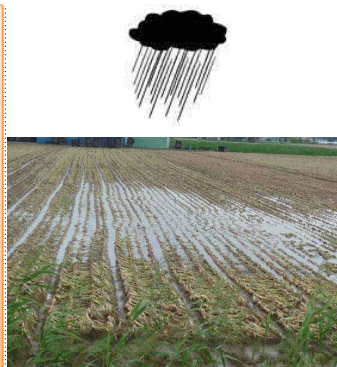


写真1 降雨後のほ場

2 活動の内容

(1) たまねぎ栽培技術の向上

ア ほ場排水性の改善取組

- ◎研修会で「地域で取組み可能な排水対策」を提案
→地域で取組む共通認識と意識向上を図る
- ◎関係機関・団体と地域で取り組める排水対策を協議
→無材暗きょを施工したほ場の効果確認



写真2 研修会で提案



排水対策実施
をアピール！

イ 早生品種の導入・定着

- ◎研修会で端境期出荷を目指した早生品種導入を提案
→現地巡回・栽培講習会で
早生品種定着に向けた
技術支援を実施



写真3 カットドレーン実演会



(2) たまねぎ産地の担い手育成

- ◎土づくりに関心の高い若手農業者に向けて
「にんにく」「短節間かぼちゃ」「休閒緑肥」を提案、
試作を支援
- ◎女性対象の現地研修会を開催し、「たまねぎ連作」
など地域の課題を共有する場を設定



写真4 女性対象の現地研修会

3 活動の成果

(1) たまねぎ栽培技術の向上

ア ほ場排水性の改善取組

- ◎無材暗きょ(カットドレーン)の施工が地域内で急増(0→5戸)。「排水貯留場所」や「緑肥併用」など、農業者が活用方法を自ら考え始めた。
- ◎「有材暗きょ」「心土破碎」など、他の排水対策の取組も始まった。
- ◎地域内で収量のばらつきが少なくなった。

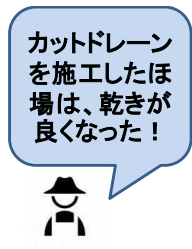


写真5 排水貯留場所

表1 排水改善取組状況

農家名	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J
H28	T			T	—			—		T
H29	T				—			—		T
H30	M	M		M	—		P	—	Y	
R元	M	M	S	M	Y	—	M	P	—	↓
R2	↓	↓		↓	—	↓	P	—	↓	↓

* T: 高畦、M: 無材暗きょ、S: 心土破碎、Y: 有材暗きょ
P: 無反転全層破碎、↓: 効果持続、—: 改善の必要性なし

イ 早生品種の導入・定着

- ◎早生栽培に経営面積の10%以上で取り組む農業者が増加。
- ◎新規に取組む農家が増えて地域全体での作付面積が増加。
- ◎JAは共選場の稼働時期を従前よりも早めるよう体制を整備。

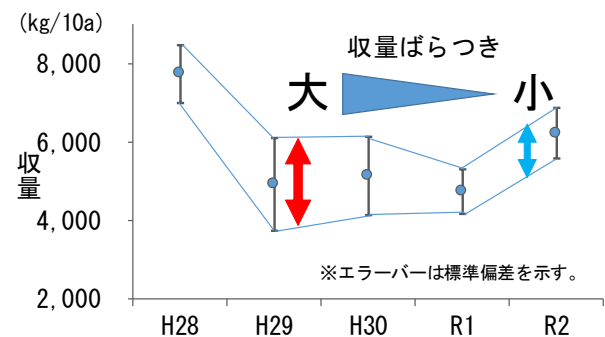


図1 収量のバラツキ推移

(2) たまねぎ産地の担い手育成

- ◎【若手農業者】試作展示を見た若手農業者の関心の高まりを受けて、「にんにく」が本格導入、様々な「休閒緑肥」の試作が広がった。
- ◎【女性農業者】現地研修を含めた学習活動で、農業経営へ地域課題やの関心が高まってきた。



写真6 緑肥の根量確認 (若手農業者)



写真7 高畦栽培で排水の重要性確認 (女性農業者)

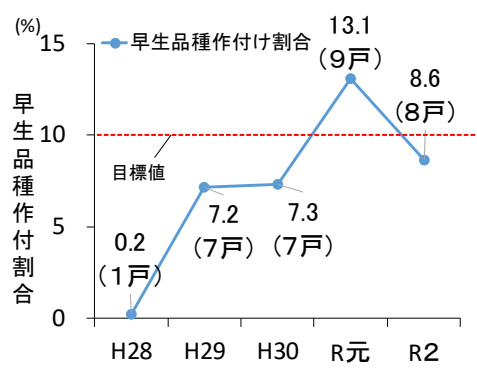


図2 早生品種作付け割合の推移

4 今後の対応

- (1) 早生品種の安定生産
 - ・品種の特性に適応した、苗質の向上と適期収穫の実践
 - ・施肥対応方法の検討と実践
- (2) たまねぎ「乾腐病」等の対策に向けた連作回避のための作物の試作・導入
 - ・休閒緑肥の適正品種の選定と定着
 - ・新規作目の選定と定着